

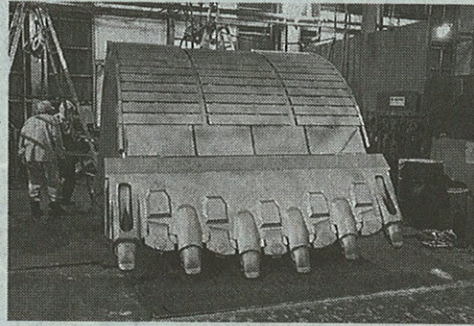
丸栄製作所

大型建機の部品増産

「コマツ向け」「バケット」新興国の需要にらむ

建設機械部品メーカーの丸栄製作所（富山県射水市、今牧繁社長）は生産品目の再編に乗り出す。コマツに納めている主力製品の「バケット」生産について、中型建機（重量十一・二十ト）向けの需要落ち込みを補うため、中大型建機（三十ト）用の生産を十二月から開始。超大型建機（二百ト以上）向けの生産能力も倍増する。需要が伸びる製品へと生産シフトを進め、収益確保を狙う。

バケットは油圧シヨベに手掛ける中大型建機向の先端で土砂などをかき出す部品。同社が新たに一億円を投じてマシンング



超大型建機向けバケットは生産能力を倍増（富山県射水市の工場）

センターを設置し、生産体制を整備。十二月から月五十台ペースで生産する。中大型建機はインフラ整備と資源開発の双方に利用できることから中国を中心に新興国で需要が伸びているという。資源開発に使う超大型建機用のバケットは昨年

から取り扱いを始め、現在は月五台ほど生産。来年三月は一億五千万円かけて大型の工作機械を導入し、生産能力を月十台に引き上げる。来期（二〇一〇年一二期）の設備投資額は、今期並みの約三億円を見込む。

足元の世界的な金融危機で、建機需要をけん引してきた新興国の経済成長にも陰りが見え始めている。だが、今牧社長は「新興国のインフラ開発は中長期的に進む」と指摘。「特に（日本勢が）競争力のある大型の建機需要は、コスト勝負に陥りつつある中、小型建機より伸びる余地がある」とみている。

中大型建機用バケットは先進国をはじめとして需要が縮小傾向にあり、現状で月五百―六百台の生産が「来年は三割程度減る可能性が高い」（今牧社長）。このため中大型建機の減産で浮いた人員を、大型のバケット部門に振り向ける方針だ。丸栄製作所は一九五六

年創業。コマツや日立建機向け建機部品のほか、ユニットバスなどの繊維強化プラスチック（FR

P）製品も手掛ける。二〇〇九年一二期の売上高は前期比二四％増の四千二億四千万円を見込む。

平成20年11月7日(金)

日本経済新聞